

証拠・ツール(アンケート、辞書、データベース、音声学等)の違いからみた『商標の識別性』、『類似』、『混同』の判断基準と対応策

講師	青木 博通 氏	ユアサハラ法律特許事務所 パートナー・弁理士
----	---------	---------------------------



日時	2025年1月31日(金) 13:30~16:30
----	---------------------------

◆商標の権利形成、商標権侵害、不正競争防止法2条1項1号・2号の適用において、判断の難しい、商標の識別性、類似、混同について、証拠・ツールの違いの視点から解説します。

◆証拠・ツールについては、需要者アンケート、辞書、データベース、音声学等について紹介し、このような証拠・ツールが裁判、審判において、どのように活用されているか解説します。

◆商標の識別性(独占適応性)については、その程度の差を説明し、それに見合った証拠・ツールの活用方法を解説します。

例えば、「ありふれた氏」かどうかを判断するデータベースとそれに基づく審決例を紹介します。

◆商標の類似については、商標の類否、商品・役務の類否の判断基準について裁判例をベースに説明し、対応策として、商標の変更、コンセント、アサインバックについても言及します。

また、商標法、不正競争防止法2条1項1号(混同)、同2号(希釈化)における類否の判断基準の違いについても解説します。

◆商標の混同については、商標の類似との違い、混同概念の拡張の傾向、商品の価格差がある場合などについても解説します。

◆最後に、まとめとして、商標の識別性、類似、混同の関係についても解説します。

◆本セミナーに参加することにより、商標法および不正競争防止法の重要な概念である、識別性、類似、混同を深く理解することができます。また、それぞれの概念の検討により、商標法および不正競争防止法を体系的に理解することができます。

【解説内容(予定)】

I 商標の識別性

1. 関連条文の趣旨・解釈(識別性、独占適応性)
2. 商標の識別性判断の証拠・ツール
3. 商標の識別性に関する裁判例・審決例
4. 最近の動向と対応策(商標の変更も含む)

II 商標の類似

1. 関連条文の趣旨・解釈(商標法と不競法の違い)
2. 商標の類否判断の証拠・ツール
3. 商標の類否に関する裁判例・審決例
4. 商品・役務の類否に関する裁判例・審決例
5. 最近の動向と対応策(商標の変更も含む)
6. コンセント制度とアサインバック制度の活用

III 他人の業務に係る商品等との混同

1. 関連条文の趣旨・解釈
2. 混同の判断の証拠・ツール
3. 混同に関する裁判例・審決例
4. 類似と混同の違い
5. 混同概念の拡張(米国の影響)
6. 最近の動向と対応策(商標の変更も含む)

IV まとめ(識別性、類似、混同の関係)

テキストはPDFで共有させていただきます

◇この研修は、日本弁理士会の継続研修として申請中です。この研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として2.5単位が認められる予定です。(※zoomにてご参加下さい。アーカイブ視聴は単位認定対象外です。)



ライブ配信だからその場で講師に質問可能 & アーカイブ配信も実施(各講義翌日から1週間)



・聞き逃しても安心!期間内はなんども。
・再生速度を変更可能!